

## はじめに

『聖書と精神医療』の最新号をお届けいたします。聖書と精神医療研究会では、2019年度のテーマとして、「発達障害」を取り上げました。発達障害については、最近とみにメディアで取り上げられることが増えてきました。例えば、NHKでは番組において取り上げる他に、公式ウェブサイトの中に「発達障害って何だろう」というページ[1]を開設してこの課題に対する情報発信を行うなど啓蒙活動を積極的に行っており、次第に一般の方々の関心も高くなっています。このような状況にあって、当研究会では、この課題を正しく理解し、どのように向き合っていくことができるのかなどについてさまざまな角度から探ることといたしました。

聖学院大学教授の村上純子氏は、発達障害の基本理解と診断をめぐる問題について概説し、その全体像を示しています。発達障害に対する間違った理解、勝手な自己判断や画一的な対応方法による危険性も視野に入れながら、発達障害に対する正しい理解とその対応が広まるために寄稿してくださいました。

臨床発達心理士、自閉症スペクトラム支援士として教会の内外で活動している岩本陽子氏は、これまでに培ってきた豊富なサポート・相談業務の経験に基づいて、関わり方や支援の方法の具体例を示しています。子どもたちやその保護者に対する関わり方についての経験が披露されており、読者にとって参考になります。後半では、聖書に登場するある人物について、岩本氏は、発達障害的な要素を見出して、そこに信仰的な意味づけを与えています。この原稿は、2019年の聖書と精神医療研究会シンポジウムで講演した内容を起こしたものです。

臨床心理士、公認心理師である森真弓氏は、発達障害に関する講演を行う中で聴衆から寄せられた質疑応答やアンケート結果を元に、発達障害に

ついてよく受ける質問に対する応答を、できる限り分かりやすくまとめています。基礎的な理解に関する質問や具体的な問題に関する質問まで幅広く取り上げています。

日本アライアンス教団千葉キリスト教会牧師の山中正雄氏は、30年以上の臨床経験がある精神科医でもあります。事務局から先生の教会に伺い、医師として、また、牧師としての経験から発達障害に対する考えについてインタビューし、記事としてとりまとめました。このインタビューの中で語られている、医療でできることと教会でできることとの分担は、教会にとって励ましです。

成田国際キリスト教会の笹岡さおり氏は、一人の知人にインタビューを行い、これまで生きてきた様子やどのようなところに課題を感じるかなどについて対話形式で詳しくまとめていただきました。取材に応じてくださると共に、公表することを許可してくださったインタビューの方々に感謝いたします。読者にとって、いろいろな問題意識を現実生活に落とし込むことができ、貴重な示唆を与える投稿となっています。

幕張聖書バプテスト教会の上山要氏は、不登校の問題を取り上げた論文を寄稿しています。特に学校に行かなくなる不登校と教会に来なくなる不來会とは共通の要素があるのではないかとの視点から、教会のあるべき姿を論じています。

清水聖書バプテスト教会の浜田献氏は、ネット・スマホ依存に陥る問題について、これまでこの問題を取り上げていますが、更に今回は、依存状態から回復していくため(あるいは予防のため)の方法について触れており参考になります。

鶴川キリスト教会の牧師である井上誠氏は、前37号に掲載の論文に続

いて、中高生の心理とコミュニケーション・スキルについて論じています。今号では、対峙するというプロセスについて聖書から論考した後に、対峙という切り口から中高生におけるコミュニケーション・スキルの現状や課題について考察しています。

今号は、編集スタイルを変更し更に読みやすい紙面作りに心がけると共に、印刷方法にも変更を加えました。そのため、発行まで少し時間を要したことをこの場を借りてお詫びいたします。発達障害という課題に対して、教会がどのように取り組むことができるのかを考える上で、本号が何かの役に立つことができるならば、当研究会にとって望外の喜びです。

2019年12月1日

編集代表 笹岡 靖

**【註】**

NHK 「発達障害って何だろう」

[http://www1.nhk.or.jp/asaichi/hattatsu/torisetsu/cat\\_touch.html](http://www1.nhk.or.jp/asaichi/hattatsu/torisetsu/cat_touch.html) (2019年11月1日)